

34 幽静館 (北大社)
北大社木村家十五代目の誓太郎氏、秀興氏、俊夫氏は三代続けて代議士を務め、とりわけ、俊夫氏は官房長官や外務大臣を歴任し、昭和58年に最初の名誉町長となる。
記念館は、町が木村家の足跡を知ってもらおうと旧木村邸跡地に建設した。「幽静」は、同家が江戸時代に松平定信公から受けたという。
ゆかりの品、記念品、軸、手紙等130点を展示。

35 村前遺跡 (瀬古泉)
村前遺跡は、エバ工業(株)の工場進出に伴い、平成4年度に町教育委員会が発掘調査を実施。調査結果から、縄文時代・古墳時代・平安時代の3つの時代に集落をつくっていたことがわかった。縄文のころの野外寮・竪穴住居、古墳のころの竪穴住居、平安のころの掘立柱建物を検出する。
また、3つの時代に住んでいた人々が使っていた土器や石器、土師器や須恵器、灰軸陶器、緑軸陶器が多数出土し、遺物は町教育委員会が保管している。

36 山田溜 (山田)
江戸時代中期桑名藩主の勧めで、この地の開墾が進められたが、水源がないため山田溜が築堤された。灌漑面積9haの農業用溜池で、通称三段溜といき周囲に自然林を残し水鳥が飛来する水辺が広がっている。
平成7年集落水辺環境整備事業として、溜と周辺の緑地が自然公園として整備された。
江戸時代から引き継がれてきた、つくろうと思ってもつけない、ひとつの文化として町の財産としての景観が広がる。

春には、イヌナシ・ヤマザクラ・ヤエヤマザクラを鑑賞して
夏には、水辺の植物を眺め、水と遊び、緑陰で休み
秋には、紅葉を眺め、落葉をふみ
冬には、渡りを観察し、木枯らしのなか先人を語らえば
溜池の姿から、溜の存在感、水の歴史がわかってくる。

37 白草福荷神社 (北山田)
主神は福荷社、家祖の御魂命、山神社、大山砥社、伏見福荷神社である。由来は明和年間(1764-1772)の初期に北山田へ移り住んだ人々が、開墾と火事流行病は出さないとの神のお告げがあったとの由来から信仰し祀ったと伝えられる。

38 御厨神明社 (六把野新田)
寛永14年(1637)2月六把野井水を開かんとして皇大神宮に祈願しこの地に氏神として奉鎮した。明治39年合祀勅令・県合祀訓令により明治40年11月各地に鎮座した八幡社、市神社、山ノ神、火産靈社を奉祀して六把野御厨神明社と唱え記る。



39 道標「香取道」 (六把野新田)
香取道は六把野新田の地蔵堂東側から大仲新田を通り嘉例川を経て多度へ通じている道で、昔は三、四尺の狭い道であったが多度祭のときには多くの参拝客でにぎわった。濃洲街道からこの香取道へわかる角に古い道標があり、その所に詳しい由緒はわかっていないが大正末期に有志数戸により東墓地への道角に建立された地蔵さんが記っている。

40 福塚古墳 (六把野新田)
誰の塚であるか不詳である。大きさが約二坪、三尺の高さで、一面の雑草のなか一本の木が生えている。一説には奥州南部藩の南部長左衛門がこの地を開拓した際、故郷の源氏の祖神、氏神八幡社を祀った跡といわれている。八幡社は一時北側150mほど移されたが、明治39年の合祀令のとき六把野御厨神明社に合祀された。

41 六把野道場 (六把野新田)
江戸中期に阿弥陀仏を安置して建立された。その後、大木明法寺の脱教場となり、現在は主に六把野新田自治会の仏事行事や集会所として使用されている。

42 神田小学校跡 (六把野新田)
明治34年に、穴太の弘道・鳥取の養養両校が合併して神田尋常高等小学校を創立した。その後、神田小学校が移転後に昭和48年神田公園として整備された。

43 顔なし地蔵 (六把野新田)
病氣の人に自分の目・耳・鼻・口などを与えて治したので「顔なし地蔵」と言われている。元は現在の場所(六把野新田)から、北150mの山の神(新宮)にあったが、明治42年(1909)の合祀令の際、山の神が廃宮されたときこの場所に移された。

44 青木駿河守の墳墓 (鳥取)
駿河守平安豊の遺骸を埋めた跡という。広さ約三坪、中央には昔、老樹が一木あったが今はない。昭和52

49 旧東員郵便局 (南大社)
明治7年(1874)南大社四等郵便取扱所が開設され、清水伝右衛門を所長として郵便業務郵便集配が始められた。明治19年(1886)に南大社郵便局と改め、明治42年大長郵便局となる。昭和30年東員郵便局と改称し、現在の局舎が開局する昭和49年まで使われた。

50 念仏橋・念仏小橋 (中上)
明治37年員弁川を挟んで南北地区にある寺院への参詣の便を図るため、各寺院の法座ごとに寄付金をつくり、川の瀬に費用が少なく管理しやすい板橋がかけられた。その後、水害や火災による流出や損壊を経て昭和39年の復旧を機に「東員大橋、東員小橋」と改名されるが、現在は地元の人々のこの橋に寄せる思いと尽力により「念仏大橋、念仏小橋」の名前が復活している。

51 六把野古井水 (八幡新田)
農業用水を必要とする人々の願いを受け、麻生田(いなべ市北勢町)万笑院の文筆大和尚より初代桑名城主本田忠勝公に懇願し忠勝公の命により着工し、麻生田の員弁川左岸を取水口として大仲新田(桑名市)までの全長12kmの水路が寛永12年(1635)に完成した。

52 六把野新井水 (鳥取)
六把野古井水の長年の通水と老朽化による水漏れ等を解消するため、大木(東員町)の藤田平左衛門が北金井(いなべ市員弁町)員弁川左岸からの水路を宝暦9年(1759)に完成させた。現在の取水口はいなべ市大安町三笠橋の東にある。

53 神田用水 (鳥取)
六把野古井水、六把野新井水の不足を解消するため昭和25年(1950)、県営灌漑事業第1号の三段揚げ方式で完成した。山田(東員町)員弁川左岸を取水口として約4km北の三百坊という丘陵地(その高低差51m)まで三個所のポンプ場により水が揚げられる。神田用水は現在も神田土地改良区(東員町山田)により管理され、町内の多くの水田に農業用水を供給している。

54 旧郡役所 (南大社)
明治11年(1878)の郡区町村編制法により、員弁郡として発足した。旧員弁郡役所は明治12年(1879)にこの地に置かれたとある。明治16年(1883)に楚原村に移り、大正15年まで続いたとされる、当時の郡内で最初の役所である。



沿革
員弁川沿岸の台地上に、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が発見されていることから、当町域には約3000～4000年前に集落が形成されはじめたと推定されます。古墳時代は、古代豪族猪名部氏の本拠地であったようで、中世の「吾妻鏡」に、その末裔といわれる員弁大領家綱・行綱親子の活躍が記されています。近世に入ると、桑名藩主松平定綱の農業振興策により、新田開発がすすみ、耕地は大幅に増加しました。農業の基盤は、この時代できあがったと言えるでしょう。明治時代になると、藩廃止に伴って当町域は三重県と改称され、同22年、町村制施行により神田村・稲部村・大長村・久米村が成立しました。昭和29年に3村が合併して東員村となり、翌年久米村大字中上を編入合併、同42年4月1日に町制を施行し、東員町となりました。

改版 2014.7.31

【東員町指定天然記念物】

指定	名称	所在地	所有者	指定日
第1号	トウインヤエヤマザクラ	三重県員弁郡東員町城山一丁目18番16	東員町	平成8年4月17日
第2号	山田半ノ木谷イヌナシ自生地	三重県員弁郡東員町大字山田字半ノ木谷3574番1地内	東員町	平成10年4月3日
第3号	トウインヤエヤマザクラ(第2号)自生地	三重県員弁郡東員町城山一丁目47番7	東員町	平成10年4月3日
第4号	観音もみじ	三重県員弁郡東員町大字瀨古泉字出口993番地	瀨古泉自治会	平成24年3月29日

【東員町指定無形民俗文化財】

指定	名称	所在地	所有者	指定日
第1号	六把野獅子舞	三重県員弁郡東員町大字六把野新田698番地	六把野獅子舞保存会	平成11年10月9日

東員町の文化財

東員町にある三重県指定の文化財として、有形文化財に穴太の薬師如来座像と長深の瑞徳寺の景川和尚像(絹本着色)、無形民俗文化財に猪名部神社の上げ馬神事がある。



A 天然記念物 トウインヤエヤマザクラ

平成6年4月16日に永瀬幸一氏により発見され、桜分類学の権威者 村田源氏の検定により学術上極めて価値の高いものとして、町指定天然記念物となった。八重咲きの大変希少なヤマザクラである。学名は[Prunus Jamasakura ver.Nahoghiana Koidz.et.K.Takeuchi]。トウインヤエヤマザクラは、奈良の八重桜に似ているが葉や花柄にも毛がなく、一つの花にめしべが2本あるものがあり、花が終わると柄の先の二つずつ実が並んでつくヤマザクラである。

B 天然記念物 トウインヤエヤマザクラ(第2号) 自生地

第1号と同種のヤマザクラである。平成8年4月27日に三宅耕三氏により発見された。花の色が1号より薄く、例年、1号より開花期が1～2週間ほど早い。

C 天然記念物 山田半ノ木谷イヌナシ自生地

イヌナシは、野生ナシの中でも最も原始的な種で、4月には白い花が咲き、6月には1cmの果実を結ぶ。一名マメナシともいわれる。学名は[Pyrus dimor-phophylla Makino]。周伊勢湾地域に分布する希少種で植物学上の基準標本となっている。このイヌナシ自生地は、平成6年に生育が確認され、学術的に価値の高いものとして、町指定天然記念物となる。



D 天然記念物 観音もみじ

瀨古泉の通称天神裏と呼ばれていたところに元禄のころ(1688～1711)、突然きれいな清水が湧きでるようになった。不思議に思っているのぞいてみると、水の底に仏像が一体かがやっていた。村の人たちは早速拾いあげ太山多井寺へお祀りした。もともと、このあたりには古い神社があったといい伝えられていたので、神仏混淆の時代のこと、そこのほとけさんではないかと、村の人たちは毎年4月8日にこの池の底ざらえをして観音池と呼んでいた。また、この池の側には大きなモミジの木があり池の古さを物語っているが、おそらく300年以上はたっているだろうといわれている。昔は、この池の水で目を洗うとどんな眼病でも治るといわれ、遠くからも観音池の水をもらいに来たといわれている。



E 無形民俗文化財 六把野獅子舞

六把野御厨神明社に奉納される六把野獅子舞は、明治の初めに鈴鹿市貫田に習いに行き伝えられたのが始まりという。魔よけと豊作を祈願するために舞ったといわれ、昭和9年以降戦争などを理由に中断されていたが、昭和50年に六把野獅子舞保存会により復活され、平成11年に町の無形民俗文化財に指定される。



日本のこころ 1000 東員町のこころ 1000
Timeline of Japan and Higashiomi Town from 1000 to 2014, listing historical events, cultural heritage, and administrative changes.

心豊かなまち 三重県員弁郡 東員町 文化財マップ
Introduction and map of Higashiomi Town's cultural heritage, featuring a photo of the Inomaru Shrine horse festival.



【三重県指定文化財】

指定種別	指定名称	所在地	告示日
有形文化財	絹本着色景川和尚像	東員町大字長深	昭和27年 3月13日
有形文化財	木造薬師如来坐像	東員町大字穴太	昭和32年10月10日
無形民俗文化財	猪名部神社上げ馬神事	東員町大字北大社	平成14年 3月18日

【猪名部神社上げ馬神事】

鎌倉時代、員弁郡司員弁進士行綱が若者の士気を高めるために行ったのが始まりと伝えられている。花笠・武者姿の騎手を乗せた祭馬が疾走し坂を駆け上がる「上げ馬神事」と「流筒馬神事」が毎年4月に開催される「大社祭」で奉納され、町民はもとより多くの観光客で賑わう。

